

ア?) したそうです。社協職員は仕事なので、私利私欲を捨てるのは当然なのですが、自分自身何をすべきかを念頭に、「町事」に奔走すべきだということを、篠栗の田中君・筑穂の田川さんと熱く語り合い、互いを奮い立たせています。(読んでますか?) 残念ながら2人は今回の研修は不参加だったので、近々に集まって「つどい」について報告したいと思います。

少人数グループによるローテーション方式で、4つのテーマを聴講するスタイルは、アットホームななかで学ぶことができ、受講のしやすさも感じました。ぜひ、次回も参加させてください。ありがとうございました。

「地域担当社協ワーカーのつどい」

に参加して

佐賀県鳥栖市社協 磯野富美子

県外組には来ないだろうと、安心してきっていた私の元に、原稿用紙が届いた時にはあせりましたが、千円という良心的な参加費用で、私達県外社協にも声をかけていただき、あのように充実した研修を受けさせていただきましたので、お礼の気持ちを込めて感謝を書かせていただきます。

今回参加して、本当に良かったです。とても収穫の多い2日間でした。一番の収穫は、たくさんの方々と交流が持てた事です。ほとんどの方が初対面でしたが、事例提供者の方々や4つの部屋を一緒に回った第2グループの方々、2日目のグループミーティングの方々。いろいろな地域の実状や考え方を聞かせていただき、大変参考になりました。同じ地域担当者とはいえ、それぞれに状況が違い、同様のテーマをいかに自分の地域に生かしていけるかが大きな課題であり難しいところです。私の復命書が8枚に達した点から、学ぶ事がいかに多かったかをご想像いただけると思います。

①水俣市社協の田代さんは、ローテーションを組んだ水俣方式のネットワーク活動を、立ち上げから分かり易く説明し

て下さいました。

②飯塚市社協の藤川係長からは、「地域に出て行け!」と檄を飛ばされ喝を入れられました。

「はい!がんばって出て行きます。徐々に!」

③福祉移送サービスについては、鳥栖では取り組んでいませんが、移送ボランティアと利用者の心の交流が素晴らしいと思いました。

④福祉マップとは、バリアフリー地図の事かと誤解していましたが、國武さんが地域に入って、福祉のゼンリン地図のようなマップを、住民自らの手で作り上げる過程を、分かり易く説明していただき感動しました。

全てビデオ上映があり、視覚的にも印象に残っています。

どの事例発表をされた社協も、地域のニーズを調査発掘し、自分の地域に合った形で取り組んであります。反省会での結論は、「良い研修を受けたなら、復命書を書いて終わるのではなく、いかに自分の社協、地域に生かしていけるかが課題だ。」ということでした。今、私の頭の中で、どう地域に出て行くか試行錯誤中です。今回知り合えた社協の方々にも相談しながら、一歩ずつ進んで行きたいと思います。

今回の研修兼つどいにご尽力いただき

ました関係者の方々、本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。



「ワールドカップ日朝戦よりも熱く!」

筑後市社協 卜部 善行

私は社協歴十ヶ月、まさに新人ワーカーです。正直な話、地域の福祉課題を私自身が把握しきれていないし、地域密着の活動ができているのだろうか、という疑問もあります。

社協ワーカーとはどうあるべきかという根本的な悩みや葛藤を持っており、今回の研修は、具体的な業務の悩みや課題を抱えているよりも、これからの活動の自分自身の動機付けになれば、と思っ

ての参加でした。ので、研修会で学んだ

具体的な内容については、触れませんが、以下、この2日間で感じたこと、思ったこと、学んだことを記述したいと思います。

《それぞれの部屋で感じたこと、思ったこと》  
■事例発表をしてくださった先輩ワーカーさん（特に飯塚市の藤川さん）の情熱とパワーを感じました。自分にはパワーが足りないと思いました。

■「自分の地域をこうしたい！」という夢を持つとうれしかったです。

■これからの活動の刺激をたくさんもらい、明日からもっと頑張ろう、と感じました。  
■これまでの自分を見つめなおしてみようと感じました。

《それぞれの部屋で学んだこと（ワーカーとして）》  
■社協ワーカーは地域に出て、まずは顔を売らなければならぬことを改めて学びました。

筑後市の有名人になろうと思いました。  
■自分の地域を知ることが大切なことを学びました。

■地域の人たちと課題を共有することが大切なことだと学びました。

■ワーカーは地域の方々の立場で物事を考えなければならぬことを学びました。

私の場合、今回の研修が直接自分の業務につながり、参考になるかといえは、そういうわけではないのですが、たかさんの刺激をいただきました。また、他の

市町村社協のワーカーさんと夜中、明け方近くまでお酒を飲みながら語らうことができ、今後仕事で悩みがあったとき、気楽に相談できる先輩・仲間が増えたことがとても嬉しいです。

内容の濃い研修もさることながら、このような出会いも研修の良さだと思えます。ワーカー同士の横のつながりをつくり、多くの先輩ワーカーさんに相談しながら、アドバイスをいただきながら、地域福祉活動に取り組みたいと思います。



「地域担当社協ワーカーのつどい」

に参加して

熊本県南小国町社協 加賀 孝之

この度の研修へ参加させていただきま

した事に、まずは感謝とお礼を申し上げます。他県からの参加者は十数名程度でしたが、その中の一人となった私は、できるだけ多くの方々と面識を持ち、今後の自分の活動へ繋げようと、名刺を配りまわりました。たまたま我が町の黒川温泉と小田温泉を御存じの方が多く、その辺りの話題から、掴みはOKといった所で、割と皆様方と打ち解ける事ができました。この様な交流はなかなかできないので、本当にすばらしい事だと思えました。参加しないと損ですよ！

研修の内容については、4つのテーマに分け、それぞれの部屋を二日間ですべて受講できるという事で、私的には初めての研修スタイルでした。一回の研修で4度おいしいといった具合で、中身の濃いものだったと思います。只、それぞれの部屋の方々は、二日間同じ事を4回話さなくてはならなかったので、大変だったと思います。本当にご苦労さまでした。又、それぞれの部屋ともビデオが用いられていたのので、一方的な詰め込み式の研修ではなく工夫が凝らして有り、あつという間に時間が過ぎたという感がありました。

飯塚の藤川さんの熱い語り口に触発されて、今の自分はこのままで良いのか？と発奮させられたし、水俣の田代さんの流暢な語りには、本当にそつのない活動の様子を垣間見たり、『福祉移送サービ

スを考えてみる部屋』では、浮羽町と春日市の様子を紹介され、特に浮羽町は山間部を抱えているので、我が町と立地条件が似ていて参考になりましたし、春日市は我々から見ると、福岡市に隣接した都会にも拘わらず、意外と交通の便が悪く道幅も狭いという不便さがあると聞いて意外だったし…と、それぞれの地域のそれぞれの問題というのが有り、だからこそ我々社協の仕事も多岐にわたり、色々な事がなされているんだなと感じました。浮羽町の國武さんの、自分自身の住んでいる集落のマップづくりが始まり、それが町内各地域への福祉マップづくりへと拡がっていったプロセスが、地域住民を巻き込んだすばらしい活動だと、私自身すごく感じ入りました。防災マップと合わせた様な物を、何としてでも作製してみたいと思いました。

この様に今回の研修に参加させていただき、福岡の地職連の皆様のパワーに触れてみて、ここ熊本の地でも頑張つて行きたいと思っております。皆様方のご発展を祈念致します。それと県社協との関係修復も是非に！

「私のきつぎ」

行橋市社協 有永 健治

社会福祉協議会に入つて一〇年、地域

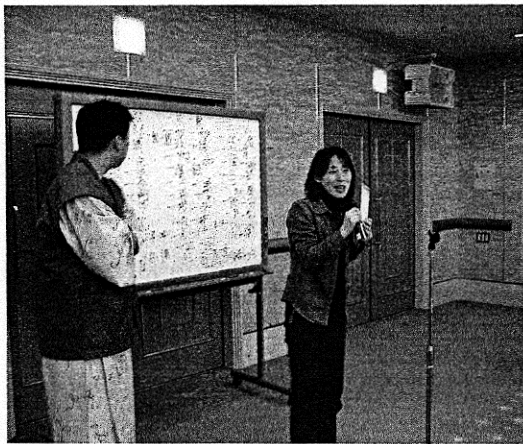
福祉担当として三年、今迄先輩がやってきたことを何の疑問も感じず、毎日仕事をしてきました。

昨年一昨年も、研修会には参加しましたが、今年は何かが違うと感じていました。自分自身の研修に対する意気込み、そして分科会々場と中身の濃さ、豊に座って膝を付き合わせ、狭い所での意見が飛び交う中、とまどいつつ、のめり込んでいきました。今迄の自分は傾聴者であったが、今回は黙っていられなかつた。地域担当ワーカーとは、こういうことなのかと目からウロコが……。今迄の二年余り自分は何をやっていたんだ、過ぎた時間をもったいないと強く感じた。

今回の研修全てが新しい息吹、反省と焦り、やりたい、やらなければとの気持ちとちがどどん膨らみました。もっと早く今回集まった人達の声や情熱を感じていればと痛感しました。

今回の研修の中で「地域福祉を推進するには、**気づき、きつかけ、づくり**が大切」だと教わった。初心にかえり、もう一度自分の現在置かれている立場を考え直し、そしてまず、ワーカーとしての第一歩を踏み出そうと思う。今回知り合った諸先輩達、これから分らない事をどんどん尋ねますので、いやがらず、面倒がらずに少しの時間を遅咲きの私にご提供下さい。次回、皆さんと会うときは、少

しでも成長しておきたいと思えます。最後に、こんな自分をこんな気持ちにさせて下さった講師の方々、又地職連役員の皆さん、ありがとうございました。今回学んだことを、行橋市の地域福祉推進に向けて、頑張るつもりです。



「地域担当社協ワーカーのつどい」

に参加して

長崎県五島市社協 清川 伸幸

私の住む五島市は長崎県五島列島最南端に位置し、平成十六年八月の行政合併に伴い社協も一市五町により合併がなされました。人口は約四万八千人、二万一千世帯となっています。高齢化率は28%を超え過疎化・少子高齢化の進行著しいまちとなっております。

このつどいに参加した経緯は市町村合併により、全市的であり、且つ、通年的に社協で取り組める事業を、県を飛び越え発展的な考えを共有できればと考え参加しました。島内には福祉活動専門員いわゆるワーカーが6名設置されており、その活動はマンネリ化し、団体事務専門員の業務であり、単発的な団体行事が地域福祉という考え方になりつつありました。

参加者の話や各部屋における事例を聞き、ワーカーとしての考え方は一致していることを実感しましたが、地域福祉とすることばの持つ意味は深く、その推進にあたっては地域差があり、その町々によって様々であることを改めて痛感しました。そこで様々なワーカーと連携し、情報を共有することは、ああそういうやり方もありだなあと考えることのできる一つの材料になると考えました。こういったワーカー同士の情報共有体制はお互いが刺激しあい、新しいアイデアをより効果的にその地域において実施するために、一層活発にしていくことで、さらなる地域福祉推進に大きなバックアップになると思います。

五島市社協では何か社協カラーの出せようという事業を全文所統一して実施しようという事で、いきいきサロンを活性化しようとして福祉活動専門員部会で決定し

取り組もうと考えておりました。現在五島市におけるサロン活動は社協職員が行かねば始まらないサロンが大半であり、ボランティアの不足ではなく、立ち上げのプロセスに問題があったと感じました。社協とサロンの間にワンクッション置き、そこにはある程度の責任感が必要で、それが福祉委員であったり、ボランティアであったり、自治会であったりそれはサロンを形成する地域において考えることにより、よりよいサロン運営ができるのだなあと感じる事ができました。



このつどいに参加して最大のプラスは他社協ワーカーと交流ができたことであり、今後の活動について県をまたいで

様々な情報交換ができればと考えております。また、我々は地域福祉のコーディネート機能としての役割を担い、地域資源を繋ぎ合わせることを実践し、福祉問題の解決に住民全体で主体的に取り組むことができるように、側面から援助していく立役者として活動していくことが必要であると考えさせられました。



「地域担当社協ワーカーのつどい」

に参加して

黒木町社協 井口由美子

二月九〜十日、地域担当社協ワーカーのつどいに参加しました。今回は二日間にわたり4つのテーマを学ぶという、今までにないスタイルで、その内容が今現

在取り組んでいることや、これから取り組もうとしている課題ということもあり、どんな研修になるのか楽しみに参加しました。

まずは、二日間一緒に学ぶグループでの自己紹介。そこには、新人からベテランまで幅広い層が集まり、それぞれが「何か」を学び持ち帰ろうという意気込みを持って参加されていました。研修会場に入ると、そこは普段は客室として使われている畳の部屋で、講師と十数名の参加者、それにプロジェクターも加わり、ギューギュー詰めでしたが、それがかえって講師との距離を縮めていた様でした。また、講師が同じ社協マンで堅苦しさもなく、自分の経験を踏まえ、よい結果ばかりではなく、失敗した事や反省点、留意点などを交えながら、活動を進めていく過程を段階ごとに細かく説明され、さらにビデオを見ることで、具体的に実際の活動状況をつかむことができました。

今回、4つの部屋をまわり、共通して感じた事は、「地域を知り、地域に出ていけないと何も始まらない」ということでした。このことは、これまでの研修でも言われていた事ですが、どうやって地域に出て行くのか、具体的に何をすればいいのか分からず、地域に出るきっかけもつかめないまま今まで過ごしてきました。

した。

それが今回の研修では、先輩ワーカーの活動を聴覚・視覚の両方から取り入れ、「こうやって動いていくんだ」というイメージがつかめ、実践への第一歩を踏み出せたような気がします。また、他の社協の方々と情報交換しているうちに、今までの社協の流れに囚われ行き詰まっていたことも、他のやり方があることを知り、構えずにいた気持ちが一気に変わりました。今回のこの研修を活かし、地域での活動につなげていきたいと思えます。

「地域担当社協ワーカーのつどい」

に参加して

熊本県芦北町社協 田中 麻理

地職連主催の「地域担当社協ワーカーのつどい」に大変関心を持ち、他県の取り組みや現状を知る機会として、今回初めて参加しました。2日間にわたって、「映像を見ながら分かるまで話してみよう」をテーマに、少人数のグループに分かれて、4つの部屋をローテーションする研修を中心に行われました。各部屋に事例提供・説明者がおられ、実際に組んでいる活動のビデオを上映した後、話し合いながら内容を深めていくもので、大変わかりやすかったです。終始、座談

会のような楽しい雰囲気の中、他地区の社協ワーカーとの情報交換を通して交流を深めると共に、地域における社協の役割を、参加前よりも深く理解できたような気がします。



まず、地域福祉の中心であるべき社協は、地域住民の声を第一に、行政や福祉施設等のパイプ役として活動しなければならぬことを改めて実感しました。また、社協職員は何度も何度も地域に足を運ぶことで、地域の特徴や課題を把握し、潜在する真のニーズを見いだす事ができること、そうして初めて地域に根ざした活動を展開することができるといふことを、改めて知ったのです。そのためには、地域の行事に積極的に参加する等、日頃

からの住民とのつながりが大切であることを再確認しました。

そして、迷いや悩みがあるときは、全国の市区町村に社協があり、自分の職場以外でも、周りに大勢の仲間がいることを忘れず、日頃から各市区町村社協との連携を図ることも重要であることを知りました。また、同じ立場から悩みや課題を共に分かち合える点で、とても勇気づけられたと同時に、社協ワーカーとしての誇りを持つことができました。今回の出会いを大切に、常に夢と熱意を持って、今後は更に積極的に地域に関わっていきたいと思います。

とにかく盛りだくさんの内容で、まだまだ書き足りませんが、最後に、貴重な機会を提供してくださった地職連会長をはじめ、講師の方々、そして仲間のみなさん、本当にありがとうございました。福岡が更に好きになりました。今後もうぞよろしく願います。



◆◆研修後記◆◆

今回のつどいを終えて痛感したのは、『集う』ということやはり大切だという事でした。皆さんの感想文から見てもしみじみ感じられることですが、私たちは住民組織化で住民交流は促すものの、自分たちの交流機会が減少し、自分の担当するマチでしか、物事を見たり感じたりする事ができなくなり、この取り組みでいいのかも分らない様な、『井の中の蛙』になっていることがあるようです。

地職連存続の是非を問うた時にも、「他の社協職員と情報交換できるので、地職連活動を存続して欲しい」との声が多く挙がっていました。とにかく複数名で集まって、社協のこと、地域のこと、自分たちの想いをぶつけ合うことと機会が重要なようです。

そういった意味では、今回のつどいは、参加者の方々の良縁を少なからず演出できたような気がします。今後皆さんこの「集いたい」というニーズに応じて、このような機会を作っていきたいと思えますので、今回参加出来なかった皆さんも今後は是非ご参加下さい。

じっくり、みっちり、ねちっこく、みんなまで語り明かしましょう！そして、後々もお互いに気軽に相談出来るような関係を作りましょう！

平成十六年度を振り返る

通常年度の半分の期間で、三つの研修と二回の広報を発行したわけですが、各社協の会員の皆さんには、地職連の取り組みがどのように映ったでしょうか？

「物足りなかつた」「つまらなかつた」「研修があつたことすら分らなかつた」「自分の仕事の参考になつた」「他の仲間との輪が広がつた」など、賛否両論様々あつたことでしょう。

地職連の存続、解散の議論をしたものほんの最近だったので、何とか形は残せたのではないかと思います。

各研修を振り返ると、ホームレス支援活動はごくわずかな参加者での実施となりましたが、政令市（北九州市・福岡市）からも参加して頂き、今後の新規会員加入への足がかりになつたと思われまふ。

地域福祉権利擁護事業・成年後見制度研修では、各ブロックごとに会場を設定し、それぞれに事業や制度の学習を進め、自分の地域で要支援の方への支援のあり方や方法を理解して頂けたようです。

また、地域担当社協ワーカーのつどいでは、本誌の中でも多くの感想を挙げていますが、「集い情報交換する」ということの必要性を強く再認識させられたものとなりました。

ただ、これらの事業や会報を発行する

にあたって、どうしても大きな問題になるのは、「事務局体制」でした。

それぞれ違う職場にいるブロック役員が、必要に応じて集まり事務作業をするということは結論から言えば「無理」です。かといって会長を受けた職員がいる社協が、事務局業務全般を引き受けるということになれば、おそらく今後、誰も会長を引き受けることはありえませぬ。

では今後「地職連をなくす方向で」ということにも絶対にしたくはないと思いますが、福岡県社協が地職連の事務局業務を再び持つことが、絶対にならないという状況下で、次年度は事業への参加だけでなく、事務局の事なども考えて下さい。

【発行者】

福岡県地域福祉活動職員連絡会

【事務局】

〒 839-1306

福岡県うきは市吉井町新治 3 7 2

うきは市社会福祉協議会内

TEL 0943(76)3977 FAX 0943(76)4329

E-mail: info@ukiha-shakyo.or.jp